

助成年度：平成 18 年度

[所属] 京都大学大学院 農学研究科

[役職] 特別研究員

[氏名] 竹内やよい

[課題]

森林の人為的改変がハリギリにおける遺伝的多様性、 病気の伝搬性に与える影響の評価

[内容]

原生林と人為的に改変された森林での遺伝的多様性の比較 2007 年 6 月に原生林・保残帯林の成木下に観察された実生を使用して、5 座のマイクロサテライトマーカーを用いて遺伝的多様性を比較した。遺伝子多様度、平均出現対立遺伝子数、近交係数、自殖率に森林タイプ間で有意な差は見られず、個体差の方が大きかった。これは、ハリギリの花粉媒介者がミツバチやマルハナバチであるために、比較的断片したところでも同じように花粉の交換が可能であるためと考えられた。また、森林タイプそのものよりも、個体の開花期や局所密度などの要因の方が、実生の遺伝的多様性や自殖率に大きく作用している可能性がある。

ハリギリの実生の遺伝的組成、内生菌の組成は、森林タイプ（原生林・保残帯）よりも、開花のパターン地理的な位置などの個体の要因に影響されることが予想された。ハリギリはハチを花粉媒介者に持ち、特にハリギリ繁殖はこのポリネーターによって低密度ながら成功しているのであろう。天然更新を継続させるためには花粉媒介者の行動範囲を考慮した、包括した効果的な森林管理が必要となってくる。